

日程第２．一般質問

○議長（保坂 悟君）

日程第２、一般質問を行います。

２月２１日に引き続き、通告順に発言を許します。

松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

松尾議員。〔１２番 松尾徹郎君登壇〕

○１２番（松尾徹郎君）

おはようございます。

課題が山積している中、各分野において優先施策は何か、行財政改革を含め、質問いたします。

市町合併後、２０年が経過しました。その間、世界ジオパーク認定をはじめ、平成２７年３月には、北陸整備新幹線も開業し、高速交通体系の整備と情報通信技術等の発達により、約２時間で首都圏と地元との二地域居住が可能となるなど、快適な生活を送ることができるようになりました。

しかしながら、人口減少とともに高度経済成長時代に整備された、道路・橋りょう・上下水道等のライフラインをはじめ、公共施設の老朽化対策など、今後、修繕や改築を必要とする施設が数多く考えられます。また、合併による公共施設の重複や、維持費・管理費を削減するため整理・統合など、財源確保のためにも老朽化施設の廃止や機能集約を図らなければならないと考えます。

一方、医師・看護師確保対策、介護福祉士の増強など、医療体制の維持と福祉施策にも力を入れていかなければなりません。また、当面する地域経済においては、既存企業の支援はもちろん、観光産業においても商業・サービス業などへの波及効果が大きいだけに、外国人観光客など観光入込客の増大も図る必要があります。

当市の課題としては、１．人口減少と高齢化への対応、２．公共施設・道路・橋りょうなどの老朽化対策、３．大規模災害に備えての防災・減災対策、４．医療・福祉体制の充実確保、５．市内産業の育成と観光による交流人口拡大策、６．農林水産業の振興策と過疎化対策、７．子育てと教育環境の整備などが上げられますが、財政状況が厳しくなる中、それらに対応するため一層の行政改革と効率的な財政運営を心がける必要があります。

多様化する市民要望に応え、次世代への負担をできる限り軽減し、人口減少と高齢化社会が常態化していくものと捉え、それに適合した社会システムの構築が必要となります。課題が山積する中、当市にとって何を重要施策として予算配分していくのか、優先的に取り組む事業をしっかりと見定めなければなりません。特に公共施設整備、産業振興策、医療・福祉、教育等、今後の方向性について、行政の考えを伺います。

よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

松尾議員のご質問にお答えいたします。

当市の最重要課題は、人口減少、少子高齢化への対応であると捉えており、子育て世代への支援から学び世代への就学支援、そして、就職世代、社会人に向けたUIターン促進まで切れ目のない支援を行っております。全国的に人口減少が進む中、市としても住み続けたいくなるまちづくりの取組を進めてまいります。

また、喫緊の課題である地域医療体制の維持や老朽化する公共インフラへの対応をはじめ、そのほかの課題につきましても、引き続き取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

それでは、再質問いたします。

まず初めに、新年度において公共施設総合管理指針の見直しを行うとのことですが、最近の資材高騰、労務単価の増額など、施設整備の事業費も今後一層厳しさを増すと思われます。

そこで、伺います。

まず初めに、一般会計における令和元年度と令和6年度までの投資的経費の比較について、どのように推移してきたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

おはようございます。

ただいまのご質問、投資的経費では、令和元年度ではごみ処理施設整備事業や「はびねす」のプール整備を行っており、市町合併以降、最大の約94億円、歳出総額には約3割を占める割合となっております。それ以降は、減少で推移し、令和5年度決算では約28億円、歳出総額では約1割という状況になっております。令和6年度の当初予算では約25億円ということで、そちらのほうも歳出の中では、おおむね1割程度ということでの規模ということで推移しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

今お聞きしましたが、令和元年度と5年度の比較は、3分の1か1以下になっていると。非常に厳しい状況で推移しておりますが、今後も、その事業によっては伸びたりすることもあると思いますけども、合併後の10年間は、新市建設計画をはじめ耐震化工事など、投資的経費はかなり多かったと思いますが、今後の投資的経費の推移をどのように見ているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

合併後10年における投資的経費、こちらのほうは災害復旧事業費のほうは除かせていただきたいと思います。こちらのほう10年間では、年平均で約64億円ということでございましたが、先ほど申し上げました令和元年度の整備では、ピーク時、それを除いて令和3年から令和5年の3年間、直近3年間で見ますと、年平均約26億円という状況でございます。令和7年度当初予算におきましても現在26億7,000万円程度というふうになっておりますので、現時点では、大体26億円前後の推移と見込まれるものかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

今後も26億、それよりもまた多くなるときもあると思いますけど、非常に厳しいということが分かりました。

それで、合併以来、廃止された公共施設もかなりありますけども、人口面積において糸魚川市と同規模の自治体と比較した場合、現状は多いのかどうか、現状をお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

今ほどのご質問につきましては、現在策定しております公共施設の総合管理指針のほうに掲載しております内容でお答えさせていただきたいと思っております。

類似団体との比較におきましては、人口1人当たり、当市においては約7平米ということで公共施設の面積を計算しております。人口が類似している全国7つの都市がございますが、近いところでは、新潟県内では阿賀野市、富山県では魚津市、長野県では小諸市がございますが、こちらを平均しますと約6平米ということで、当市は少し、やはりそういった都市に比べると多い。

また、面積が類似している全国7市、これは北海道の石狩市、また、青森の十和田市などございますが、こちらのほうは平均が約8平米というような状況で、当市のほうが少し少ない状況ということで分析しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

市内公共施設の中で、分野別ではどの分野が一番多いのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

分野別としましては、学校教育系の施設が面積が一番多く、公共施設全体での約4割を占めているものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

学校整備計画については後ほどお聞きしますが、公共施設の更新時期について、建て替えの時期というのは耐用年数何年を考えているのか、そしてまた、改修ということになりますと、大規模改修は一体何年になるのかということになりますが、ここ20年でどのくらいかかるのか、非常に不安なんです、年平均、これどのくらいあれば現状の施設を維持できるのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

いわゆる箱物につきまして、今ほどのご質問につきましては、同じく総合管理指針のほうで出しておるところでございますので、そちらでお答えさせていただきます。

更新につきましては、耐用年数一律60年で見ております。また、大規模改修につきましては、建築後一律30年で行うということで見えております。その計算で、中で20年ということで、平均を見ておりますと、大体大規模修繕であると平均で18億円を見ていると。これ今現時点での全ての施設になりますけれども、そういった形の計算をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

私、聞きたかったのは、これから直していくに当たって、予算とやらなければならない事業を全部残すとしたら、相当これ無理がくるだろうなと。その辺のところをお聞きしたかったんですが、その差額、例えば今の現状の施設を維持するとしたら、これだけ年間不足してくるんだという、そういった数字、把握してたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

先ほどの当初のご説明の中で、投資的経費、特に災害復旧費を除いたときの費用ということでございます。そちらのほうお答えをさせていただいたときには、年26億円ということでお答えをさせていただいております。そちらの中で、一部含まれるものはありますけども、今、指針に掲載している事業をということで改めて18億円ということが必要になってきますので、全てが足す、足し算ということではないと思いますけども、やはり現状からはかなり建設事業費は膨れてくるのではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

恐らく今ある施設を残していくというのは、これは無理なんだろうなと。本当はそういうようなお話を聞きたかったんですが、道路・橋りょう、上下水道、公共インフラについては、これは生活に直結しておりますので、簡単にこれは、何ていいますか、縮小はできないと。当然やっていかなければならない。これについても、年間どのくらい必要としてるか、今までは企業会計という形でやってましたけれども、全体を見て、お答えいただきたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

こちらのほうの推計につきましても、先ほどの総合管理指針の下に出したものでございますけども、年平均で72億円を超えるということで、今現在、試算をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

不足額等々、聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

大変申し訳ありません。ただいま、まずもって72億円とお答えさせていただきましたが、年平均32億円の誤りでありました。訂正をお願いいたしたいと思っております。

それで、不足額につきましては、詳細、まだまだこれからの事業を整理する中で出てまいりますので、先ほど公共施設、箱物も含めまして、具体的に幾ら不足になるかというところでは算出はしておりませんけれども、ただ、今これらを見ていくだけでは、かなりの不足額といえますか、もう通常では追いつかない状況になっていくんだろうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

予測の数値はなかなか言えないと思うんですけども、非常に厳しい数字になってるんだろうなと思います。

そして、まず何を言いたいかといいますと、今回の資材高騰、そして労務単価、見直すということです。今後、今現在不足している額よりも、ますます厳しさを増すというふうには捉えられんですけども、そういう意味では、もちろん補助申請は今までどおり積極的にやらなければなりません。国もなかなか厳しい状況にあるだけに、今後、厳しいだろうなと。ですから、できるだけ行政改革を推進して捻出するようにしていかなければなりませんし、無理な施設整備というのはこれはなかなか大変なことになるだけに、慎重に、計画的にやっていただきたいと思います。

それで、利用見込みのない公共施設ですね、安全を確保して、維持管理費の縮減を目的に別の用途として活用するか、あるいは廃止または取壊しもやむを得ないと思いますが、今後こういったものについても考えているでしょうけども、その辺の考え方をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

公共施設の今後の考え方とすれば、今ほど議員からのご質問・ご提言あったとおり、対応も非常に多く選択肢としてはあろうかと思っております。その中では、今ほどの除却であったりということも考えているというところでございます。

いずれにしても、そういった対応につきましては、現在の施設の利用状況であったり、市民への情報提供、それに寄せられる情報、課題などを整理しながら、判断をしながらしっかりと取り組んでいくということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

今、市民への情報提供という言葉がありました。

実は、具体的な例を申し上げますけども、能生地域において、火葬場については、今後は指定管理の期間が終わったら廃止と。合併後、修繕修繕とやってきて、本当に今までいろいろとご苦労いただいたんですけども、今後は廃止の方向だと。しかし、市民はやはり今あったものがなくなるっていうことに対しては、非常に意見があるわけですね。

今のような市民への詳細説明、これね、もっとしていかないと、今たまたま能生の場合は火葬場のことですけども、今後、集落センターといいますか、あるいは公民館とか、何かそういった公共物が、過疎化の進行とともに、いやもうこれはもう造りませんよと。これは、その集落とこの集落と共同で使ってくださいといって、一つになったりとか、あるいは合同のものを造ったり、小

さな拠点じゃありませんけども。そういう時代が入ってきているだけに、やはりもっと詳細な説明をこれから丁寧に市民にしていかないと、行政に対する不満が、やはり爆発すると思いますので、よろしくお願いいたします。

参考までにちょっとお聞きしますけども、公共施設の種類によっては維持管理費、当初の建設費の、物によったら4倍から5倍、維持費かかるだろうと言われることもあります。例えば令和5年度の決算の場合、公共施設等の維持管理費、どのぐらいかかっているのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

維持管理経費としましては、光熱費、施設修繕料、また、維持管理委託料、土地借上料等がございますが、それらを皆合わせますと、おおむね令和5年度では約14億2,000万円程度というふうに試算しておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

聞いてびっくりしてるんですけど14億、ここには使っていない施設の維持管理費も当然入っているわけで、簡単に取り壊そうとしても、今回の子育て支援センターのようになかなか取り壊すのも大変な時代に今入ってきているだけに、本当にこれ計画的にやっていかないと大変なことになるだろうなと今、危惧しております。

それで、この機会に駅北子育て支援複合施設について、1点伺います。

子育て支援複合施設が、取壊しは、今問題になっておりますけども、保護者が早期にやっぱり整備を望んでいるだけに、まずは公共施設や民間の空きスペースを長期間利用し、利用状況や運営方法など、現状をよく確認してから建設を考えてもよいのではないかなと私は思うんですけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

おはようございます。

お答えいたします。

今、議員おっしゃるとおり現状、施設整備のほうに若干遅れが生じる可能性があるといったような状況にもなっております。

また、これも議員おっしゃったとおり、今の子育て世代の方が、実際そういった遊び場を求めていらっしゃっておりまして、そういった方に対しては、今現状、公民館ですとか体育館などを使った短期、単発での遊び場ということで開催して、対応させていただいているといったところござ

います。

施設整備につきましては、これまでも議論を重ねて、計画されてきた事業であるというふうに意識しておりますので、様々なご意見をお聞きしながら、事業のほうは進めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

以前から、市長にも私は今のようなお話をしたことは記憶しております。要は、単発でやっても、実際通してやらないと、利用がどうなのか。例えば平日は、全く少ないかもしれません。土日は、確かに混むかもしれない。しかし、これ長期にわたることによって、いろいろな状況が分かってくるし、そしてまた、これは今度、財政課にお聞きしますけれども、年間5,000万だと。10年で5億だと。先ほど整備費用についても非常にこれから厳しくなるんだという、あるいは今回のように病院の急な支援金、支援策をしなければならないとか、こういった急にやってくる需要があるだけに慎重にやっていくべきだと思いますね。ですから、いま一度申し上げますけれども、やっぱり民間の施設でも、あるいは空きスペースでも、1年でも2年でも、オープンまでの間、やりながら様々なことを計画したり考えたりしていただければと、そのほうがいいんじゃないかなと思うんですけど、いま一度、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、今ある施設の中でというところの利用自体も考えなかったわけではないんですけど、現状、使われている施設に関しましては、やはり長期的に利用するというのがなかなか難しいといった面もございます。

昨年ですかね、1か月近く、3週間程度にわたって施設のほうをお借りしたような例もありましたけれども、なかなかその中でも利用調整が難しかったといったところもございますので、かといって、市街地から遠くの施設等になりますと、やはり利用者の方の利便性といったところもなかなか難しくなってくるといったところがあって、今、単発的な形で、公民館ですとか体育館を使って開催をさせていただいているといった状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

もう一度、考えてみてください。

この際、先ほど教育分野の施設が多いということを聞きましたので、学校整備計画について伺います。

少子化のため、児童の減少により複式学級の小学校が増えております。近隣の自治体では、統合問題について積極的に推進しようとしている市が、ぽつぽつありますけれども、当市の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

今、複式で運営されている学校は、全部で7学校あります。今後、学校施設、それから学校校舎自体の改修計画、それから地域社会と一緒に教育力を高める一貫教育、そういったもろもろのことを視野に入れながら、学校の適正配置について、今後、学校のあり方検討委員会のほうで、7年度に検討していきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

7年度で検討していくと。あまりにも遅いんじゃないかなと思います。

地域によっては、小学校の統合について前向きに考えているところもあると思いますが、今現在、複式学級で運営されている学校が7校と。たしか市内は14校でしたかね。14校中7校、50%が複式学級。

この複式学級が、確かにメリットもあるかもしれませんが、やっぱり地域の心情もあり、デリケートな問題で、あんまりはっきりとお話するのもちょっといかがかと思うんですけれども、しかし、いずれ統合するということを考えれば、今のうちに統合を積極的に進めるべきだと。なぜそうなのかといいますと、申し上げるまでもありませんが、体育の授業はボール競技がなかなかできないと。あるいは音楽についても、合奏演奏する場合に、楽器が限られてて、なかなか一般的な合奏ができない。子供の可能性ということを考えたときには、非常に子供にとってはマイナスだろうと思います。そういう意味では、そしてまた運動会、地域の方を巻き込まなければ運動会ができないというのは、我々の世代からしてみたら、残念だなと思います。先生も、相当負担があるだろうなと思いますけれども、もっと積極的に進めるべきではないかなと思いますが、教育長はどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

轟本教育長。〔教育長 轟本修一君登壇〕

○教育長（轟本修一君）

子供たちが学ぶ学習環境、学校の環境ですけれども、何をもって適正規模とするかという部分については、非常にいろんな見方がありますので、一概には言えないというふうに私は思ってます。それで、やはり一定の人数を確保することが望ましいというふうな部分は、国のほうの基本方針に

もしっかり述べられています。確かに今ほど議員さんおっしゃるように、体育とか芸能教科とか、いろんな場面で人数が必要な学習等も必要です。そういった部分について、今現在、複式で抱えている子供たち、もっともっと多くの人数で学びたいというふうな部分については、小小連携として、小規模校同士の子供たちが交流する。あるいは大規模校と一緒に交流する中で、少しでも大人数の環境をつくり、そして、集団の中で切磋琢磨して学んでいこうというふうな部分での取組を進めています。もっともっとスピード感を上げて、ここら辺りの環境整備が必要なんではないかというふうなご指摘なんですけども、あまりにもそこら辺りスピード感で、一方的に行政のほうからトップダウンでもって、そういったふうな部分については、なかなか推し進められないというふうな部分のところもあります。

それはなぜかという、保護者や地域の合意形成というふうな部分のところ、やっぱり何よりも大事にしなければいけない。学校は、いろんなその機能を併せ持った場所です。子供たちが学ぶ場所じゃなくて、地域の皆さん方が集う、そして交流する。そして地域にとっての一番のシンボルは、やっぱり学校というふうな位置づけで、長い間そういった地域文化がつくられてきたわけです。それを一方的に子供が少ないからといって、統合・閉校というふうな部分のところに決め付ける部分については、やはり慎重に進めるべきだろうと。

ただし、一定の子供たちが学ぶ環境には、一定の人数が必要であるというふうな部分については十分に私どもも考えております。昨年度からも、そこら辺りの在り方については、庁内メンバーでもって熟議を重ねてきました。そして、来年度もまた熟議を重ねていく中でもって、糸魚川市にとって、子供たちが学ぶ環境というのはどういう環境がベストなんだろう。その辺の部分の軸になるのは、やはり子ども一貫教育で培ってきました地域コミュニティづくりの中の学校というふうな存在を、うんとやっぱり特色を持って打ち出していく。要するに、学校づくりは地域づくりだというふうな視点から、一歩ずつ、これから糸魚川の学校の在り方について検討を進めていきたいと。そんなふうな基本的な考えでおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

十分教育長の言われてること、私もそのとおりだと思いますが、しかし、何といっても子供たちの可能性ということから私は入っております。もちろん小規模校が悪いわけじゃないんですよ。本当にこれは丁寧にやっていかなければならない。本当に地域のシンボルでもありますので、住民の感情ということを考えたときに、本当に丁寧に慎重にやっていかなければならないと思いますけれども、しかし、今後の子供たちの将来を考えたときに、果たしてこれでいいのかと思うだけに、今のような質問をいたしました。

それで、少し今度、中学校に移りますけども、今年、令和5年度に生まれた子供さんが135人というような答弁があったと思います。これは、やっぱり10年過ぎると中学生になると。そうすると、我々の世代と比較するのはちょっとおかしいかもしれませんが、かつて糸魚川市は、市内に、私のときには12校ありました。いわゆる能生中学校は、私のときは170人ほど、1学年いまし

たけれども、糸魚川中学校あたりは、300人以上いたのかな。とにかくそんな人数でした。

135人というですね、糸魚川市内で人数だけ言えば、もう1校でいいんだと。クラブのことも考えれば、今は地域移行になりましたけども、1校でいいということになりますと、施設も今現在4校ありますけども、仮に1校になったときに、余ってくるわけですね。要は、このような少子化ということの中で、例えば小中一貫校というのがありますよね。小中一貫校については、糸魚川市としてどのように考えているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

 蘆本教育長。 〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

 お答えいたします。

 小中一貫校、あるいは、また別の視点からいうと、義務教育学校というふうな学校も9年間を見通した一つの教育課程を軸にして、9年間連続して一貫した教育体系の下で学習ができるというメリットがあります。市内の検討委員会のメンバーの中でも、昨年度は県外視察をしまして、富山県のほうに2校の視察に行っております。メリット・デメリットというふうな部分がありまして、やはりメリットのほうの部分のところが非常に大きいというふうな部分のところで、私たちは学ばせていただきました。

 したがいまして、将来的に、結論的なことは簡単な言葉で言えませんが、将来の糸魚川市の学校の在り方の一つの方法として、小中一貫校、義務教育学校というふうなのところも視野に入ってくるというふうな部分のところで、私どもは、今現在受け止めていますし、その方向でもって、また、熟議を重ねていく中でもって、将来の学校の在り方について、検討を重ねていきたいというふうな立ち位置で今現在おります。

 以上です。

 〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

 松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

 実は、2年ほど前になりますが、私どもクラブで、政務活動で小中一貫校研修してまいりました。やはり生徒数が減ってきてるからということではないんですけども、先ほど一環と言いましたね、教育方針の一環。そういったものを考えれば、いわゆる9年制の学校というのは、また、大いに結構だなと。これについては、私はこういう我々のような市域が広くてこういう児童数が減ってきた生徒数が減ってきたということになれば、それらも加味した上で、今後これはやっぱり積極的に検討して欲しいと思います。行政主導で、これはもう大いにやるべきだというふうに私の意見として申し上げておきます。

 次、ガス上下水道についてちょっと伺います。

 全国的に老朽化が進む公共インフラの維持や更新が課題となっておりますが、今回、埼玉県の高潮市で下水道管が損傷し、道路の陥没事故がありました。新潟県内においても3年間で265件あったと報道されておりました。当市においては、実際のところどうだったのか、小規模ながらこ

のような陥没があったのかどうか、今までの経緯をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

やはり八潮市は、かなり報道もされておまして、ショッキングな映像が流れているなどというのは、テレビの報道を見て感じております。当市においてなんですが、小規模ではあったんですけども、やはり下水道管の腐食によりまして破損した事故というのが、令和2年と3年に2回発生しております。こちらのほうは、舗装のほうの陥没までには至っておりませんでしたが、やはりちょっといつの段階からかは分からないんですけども、破損が始まって、最終的には管が潰れまして、汚水のほうがちょっと出てしまったという事故になっております。

ただ、そのときも破損に伴いまして、掘ったところ、空洞が発生しておりましたので、破損箇所につきましては、速やかに応急復旧を行ったところでございます。

またほかにも小規模な陥没については、管の破損に伴うもののほかに、埋め戻しの土によって、長年年数がたつことによって締まってくる場合がございます、そのときにはやっぱり若干の道路のほうが下がるという事故、事故といいますか、状態、現象というのが発生しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

公共下水道が始まってから早いところでは、やがて50年近くなるんじゃないかなとは思いますが、今後、更新時期がどんどん迫ってきて、部分的に、計画的にはやってるかと思えますけれども、下水道管に限って言えば、これいつ頃から更新時期が始まるか、財政担当のほうよろしいのか、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

下水道管というか下水道の施設になりますが、やっぱり昭和50年代の後半から建設のほうが始まっております。古いものは既に40年以上経過しておりますので、今後、更新等が入ってくるかと思うんですが、一概に1つの管において、その管全部が駄目になるということではなく、今硫化水素というんですけど、発生状況等によりまして、管の状態は変わってくる状況になっております。ですので、計画的に点検調査のほうを実施いたしまして、破損に結びつく劣化が発見された場合には、道路状況とか劣化の状況を見まして、優先順位つけて計画的に更新のほうを図っていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

話は替わりますが、上水道において、最近、新聞にも出てましたが、健康を害するといわれる石綿管や鉛管が、まだ残っているところが全国で203万か所、これ23年度の3月末現在ですけども。糸魚川市には、まだこのような状況になってるのがあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

鉛管の状況について、ご報告というか、お答えさせていただきたいと思いますが、今現在、市のほうで管理している管につきましては、鉛管のほうはありません。

ただ、一部地域、かなり早い時期に整備された地域の家庭内にある管につきましては、ちょっとそちらのほうの情報というのがないので、あるかないかというのはちょっと個人のものにつきましては分からない状況にはなっております。

ただ、市の管理している水道管についてはありません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

そうすると、家庭内のは、個人で確認をせえということで、これはなかなか、これちょっと注意喚起したほうがいいかもしれませんね。もう忘れてますから、よろしくお願いします。

それで、ちょっと話が替わりますが、ガス上下水道の包括民営委託、先日も建設産業常任委員会でありましたけれども、今後、ガス事業は民間譲渡、上下水道は第三セクターとして行政から離れることとなりますけれども、水道料金については、水道法の関係により、議会承認が必要になるのかなと思いますけれども、ガス料金については今後どうなるのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

ガス・上下水道につきましては、ガス事業については事業譲渡、上下水道につきましては包括委託ということで、方針のほうを出させていただいております。ガス事業は事業譲渡になりますので、基本的には官民共同出資会社という、新しい譲渡先のほうで料金のほうの設定をすることになってまいります。

ただ、多分、皆様、ガス料金の上がり方とか、そういうところがすごく気になるんじゃないかなと思うんですが、要請という形にはなるんですが、3年間は、料金のほうの改定といいますか、据置きを要請していくということで、今動いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

市民は、その辺のところがやっぱり気になる場所だと思います。

それで、確認しますけれども、ガス事業は民間譲渡となるということなんで、これまでの、いわゆる現金・預金、それから借金など、これは行政がそのまま引き継ぐとして考えていいのか。そしてまた、ガス事業の設備、整備負担金は、共同出資会社が100%受け持つと考えていいのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

お答えいたします。

まず、ガスの施設ですね、固定資産になるんですが、こちらのほうは基本的には譲渡いたします。あと借金ございますので、そちらのほうは、市のほうで返済をいたします。現金・預金につきましては、市のほうのものになりますのでそのまま、どういう形になるかはちょっとまだ検討中ではあるんですが、そのまま市のものにする予定でございます。

〔「暫時休憩してください」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前10時44分 休憩〉

〈午前10時44分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

大変失礼いたしました。ガス事業の整備につきましては、今度はガス譲渡先の、官民の共同出資会社のほうで整備のほうを行うことになってまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○ 1 2 番（松尾徹郎君）

今、確認の意味でお聞きしました。

それで、上下水道の場合、施設そのものは行政が所有するということで、運営権は民間に任せる。その場合、耐震化、あるいは長寿命化などの整備費については、これは引き続き、行政が責任を持つとして捉えてよいのかどうか、その辺、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

上下水道につきましては、施設は市のものになっておりますので、今後の整備につきましても、市のほうで実施のほうをいたしてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○ 1 2 番（松尾徹郎君）

これからのことですので、いろいろとまた不透明な部分があるんでしょうけれども、よろしく願いいたします。

次に、空き家について伺います。

現在、当市の空き家率はどのくらいか。例えば糸魚川地区、能生地区、青海地区、それぞれの町なかはどうなのか、そういう情報はあるのかどうか、把握されているか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

市内の空き家率ということですが、5年に1回、住宅土地統計調査を総務課のほうで実施しております。それによりますと、直近の調査結果として、糸魚川市内の空き家率は20.3%ということになっております。

ただ、先ほど議員おっしゃいました各地区ごとの空き家率については、結果が示されておりませんので不明ということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○ 1 2 番（松尾徹郎君）

数年前だったかな、全国平均が13.7%だったかな、それが今は糸魚川市は非常に進んでいて20.3%ということで、びっくりしたんですけども。ある有名な研究機関によりますと、全国的に見て、これ2040年以降には、空き家は3件に1件の割合になると。あと15年後ですけど。これは、マンションとかアパートも入っているのかもしれませんが、3件に1件ということになりますと非常にびっくりする数字なんですけども。当市の場合、2015年といいますと2万

7,000人なんですね、人口がね、約。老人独り世帯が今でも多いんですけど、さらに増加するということを考えたときに、空き家の将来推計という数値、恐らくこれは把握されてないかもしれませんが、どのような推移になるのかということを、もし分かったら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

空き家の推計ということなんですが、先ほど私申し上げました、住宅土地統計調査の示す結果と、それから当課でやっている空き家調査、これは5年に1回全数調査をしてるんですけども、この数で言いますと約800件ぐらいの空き家というふうになっております。住宅土地統計調査と、また、当課でやっている空き家調査の結果、かなり差がございますので、その差については、議員おっしゃいましたアパート等の空室も住宅土地統計調査には入っておりますので、その差だというふうには思っているんですが、なかなかちょっと全数調査でないと把握が難しいのかなというふうに思っております。今後、伸びていくというふうに私どもも推計はしておりますが、例えばその伸び率と、例えば人口減少とがどういうふうの流れでいくのか、関連づけて結果が変わっていくのかというところにつきましては、まだちょっとそこまでは推計ができていないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

非常に厳しい数字になるだろうなということが予測されるだけに、これについてもいろいろこれから考えていかなければならないんだろうなと思います。

空き家が増加した場合、周辺の土地あるいは不動産の評価が下がり、主要財源である住民税と固定資産税、これ減少が考えられるんですけど、この辺、市民課としてどのように捉えてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

土地の地価につきましては、毎年、不動産鑑定を依頼しておりまして、空き家による地価の下落というのは、今のところ影響はないというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

空き家がどんどん、どんどん増えれば、恐らく評価は下がるんだろうなとは思いますが、それで、空き家の有効活用、これは、みんながみんなこんなふうにはできませんけども、例えば今、独り世帯の高齢者が圧倒的に増加しているということで、独り暮らしの孤独感を解消する、あるいは買物難民や交通弱者、あるいは孤独死を防ぐために安心して在宅生活が送れるようにするために、

いわゆる空き家を四、五人のグループホームに活用するというような考え方、そしてまた、介護を必要とする方々の、いわゆる四、五人の小規模多機能型の施設にすることによって、ヘルパーさんが移動しやすくなって効率的にもなると。経費も少なく終わると、交通関係の経費ですね。そういった考え方はできるかと思うんですけども、この辺についてどのようにお考えですかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

おはようございます。

お答えいたします。

高齢者の住宅にというところでのお話かと思いますが、実際に、過去には障害者の方のグループホームにつきまして、空いた住宅を活用して、今6か所ありますグループホームのうち、3か所がそういう形で運用をしております。

ただ、それは平成の時代の話で、実は令和になってからはグループホームはみんな新しく整備されているという現状もございます。今のお話は、高齢者ということでありまして、この障害もそうなのですが、高齢者のほうの施設も計画の中で、高齢者ですと介護保険計画の中で整備計画が立てられておりまして、そちらのほうのグループホームの整備につきましても、計画はありますが、空き家を利用してということは、今までないという状況です。

ただ、今後の計画の中で、事業者さんのほうでそういった発想をお持ちであるということだったり相談があれば、今、第9期計画の中では、計画としては立てられておりませんが、今後の動向を見まして、相談があれば一緒に相談に応じながら検討の余地はあるかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

先日、村上市の話が載ってましたけど、新聞に。介護事業者との連携も必要になると思いますけれども、今申し上げたヘルパーの移動ですね、ヘルパーさんの移動。やっぱり交通費の一部を、何だ、訪問介護報酬の引下げにより事業者が非常に苦勞してきているということで、少しでもその負担を和らげるということで交通費の一部負担を行うというような記事が載っておりました。こういったことについては、糸魚川市としてはどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

村上市の例につきましては、報道等で確認させていただいております。当市におきましても、今

年度から遠隔地介護サービス送迎等支援事業という事業を実施しておりまして、今年度の事業見込みとしては３３０万円ほどになりますけれども、訪問等通所サービスの送迎に対する燃料費の一部を助成、補助するという制度でございます。

実際、今のところなんですけれども、７つの事業所のほうから実績上がってきておりまして、介護報酬のほうは、基本報酬単価が訪問事業者は下がっているという状況がある中、この補助があることで、非常に負担の軽減になったという声もいただいているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○１２番（松尾徹郎君）

空き家にも関連するんですけど、ちょっと移住・定住について、ちょっとお聞きします。

地方は、土地や住居、生活費に係るコストが非常に安いと。平均的な地方都市では、東京の約３分の２で生活ができると言われておりますが、その住む価値観にもよりますけれども、実質的に地方のほうの方が豊かだと、私自身も思います。年金生活者をはじめ、就職氷河期世代、今５０代前後ぐらいの方々ですか、都会へ出た方々が、所得などの理由で地方回帰がもしかしたら早まるかもしれないというふうにも言われておりますけども、これについて、行政はどのように捉えているか。そしてまた、現在の移住者数と移住年齢はどの世代が多いのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

まず、移住のそういった傾向につきましては、おっしゃるように、すいません、もう一回お願いしてもよろしいですか。

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前１０時５７分 休憩〉

〈午前１０時５８分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

すいません、大変申し訳ありませんでした。

まず、市の移住の支援制度を使った移住者数としては64人といった状況でありました。

また、氷河期世代等の方々の地方回帰と言われる状況につきましては、コロナ禍をもってそういった状況が促進されたといったようなお話もありましたけれども、現在のところ、また地方から東京への一極集中というのがまた戻っている状態といった状況になっているとは思っております。

ただ、引き続き地方回帰といった流れについては、関心が高い状態ではあるというふうには捉えております。

すいません、具体的な移住者数は申し上げましたね。

以上でございます。

度々申し訳ございませんでした。具体的な年齢層につきましては、すいません、現在、今ちょっと手元に資料がございませんのでお答えできません。申し訳ございません。

○議長（保坂 悟君）

議長から、行政側にちょっと申し上げます。

質問についてはしっかり聞き取りをしてですね、その項目について、答えられるところでしっかり答えて、答えられないものは、答えられない理由をしっかり述べていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

議長をお願いいたします。

ちょっと今、通告書の、ちょっと深く入っておる部分があつて、お答えも適切でない部分がございます、その辺、議長、ちょっとお計らいいただきたいと思います。

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前11時00分 休憩〉

〈午前11時00分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

今ほど市長より、通告書に対して答える内容が広範囲であり、また詳細な質問になっていない部分については、答えられる範囲は答えますけれども、あまりにも通告書の中の細かい指定がないものについては、少し難しい面も理解できますので、その辺、ご了承いただきたいと思いますというふうに質問者に対してお願いを申し上げます。

〔「休憩お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前 11 時 01 分 休憩〉

〈午前 11 時 02 分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

申し訳ありませんでした。

それじゃ、これもし答えられなかったら結構ですけども、最近、能生に居住する外国人がぼつんぽつんといまして、これはスキーをしたりとか、これは居住というよりもしかしたらセカンドハウスのような感覚で求めているのかもしれない。こういった情報があるだけに、その辺、まず把握されてるかどうか、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

外国人の方々が空き家を求めておられるという状況は、私ども、若干、不動産業者さんたちからお聞きする中で、お聞きはしているところであります。それがセカンドハウスのようなものかどうかというところまでは、すいません、ちょっと把握してないところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

これは、また産業関係のほうで、またお聞きしたいと思えますけれども、スキーをしたい、あるいはサーフィンをやりたい、意外に我々が気づかないところでもって、我々の地域に関心を持つ外国人がぼつぽつと増えているような気がいたします。

先日、白馬村の外国人観光客で非常に困ってところの報道が、報道といいますかテレビ番組がありましたけれども、それに比較すれば、まだ我々のほうが住みやすく、そしてまた、そういったものにも関心を持つ外国人が出てきているということに対しては、今後の施策の展開によっては大いに活性化につながるだろうなというふうに思います。これはまた、産業関係のほうでお聞きいたします。

それで、医療についてお伺いします。

糸魚川総合病院の経営が非常に厳しいということでもありますけれども、今後、最低限、どの診療科を残してほしいか、その辺のところを考えがあればお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

ただいま地域医療構想も進められている中で、糸魚川総合病院の診療科について、どの診療科が必要で、どこがなくなっても仕方ないということは明確には申し上げられませんが、救急医療は必ず残していかなければいけないというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

確かに救急医療は、絶対に残してほしいということ、それから、またやっぱり最低限、総合診療もしっかりしてもらいたい。これは開業医の方がどんどん減っていく可能性があるということで、そしてまた、いわゆる内科もそうですし、外科もそうです。そういったですね、必要、みんな必要なんですけども、最低限のものをやはりこれから要望していくでしょうけども、よろしくお願ひしたいと思います。

それで、年間どのくらいまで資金援助できるのかと、この辺のところを、考え方を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

資金援助の関係につきましては、私、個人的にお答えはできませんけれども、可能な限り、医療を維持するためには支援が必要だというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

可能な限りとしか言えないかもしれませんが、しかし、これ、まさか湯水のようにやるわけにも、できるわけでもないですし、やっぱりそのある一定のラインは持ってるでしょうけども、もし差し支えなければお聞かせ願ひたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

現在は、やはり糸魚川総合病院は、糸魚川市に一つしかない病院という形の中で取り組んでまいりましたが、しかし、今、厚生連病院がこういう形になってきたり、県立病院が非常に厳しい経営の中でやってるという状況があるというのは、やはり県内の医療全て厳しい環境にあるということであるわけですので、これを県全体で、県内の医療をどうするかという構想の中で判断をしているわけでありまして、その中で、やはり県がどこまでリーダーシップを取ってもらえるかという形の中で決まってくるかなと思っております。やはり市としても、例えば医療構想の中でどうしても糸魚川市だけ、どうしてもここだけは何とかという形になってくると、糸魚川市がその部分を持たなくちゃいけない部分も出てくる可能性もあろうかなと思っておりますが、しかし、それは医療構想の中でしっかり訴えていきたい。糸魚川の、この医療どうあるべきかというのは検討、そして連携をしていきたいと思えますし、ただこれは、診療報酬という見直しもしてもらわなくては、とても持続できないわけですので、そういう中で、市といたしましては、本来は、これは公的な資金は出すべきものではないと思ってるわけではありますが、しかし、もうどうしても地域医療を守っていくという形の中で、やむを得ず今までやってきたところだろうと思っておりますので、基本的にはやはり国がしっかりと何かそういった地域医療を支えていくようなシステムをつくってもらいたいし、県も連携していつてもらいたいし、市としては、そういったものを望んでいくというのが、私は基本だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

確かなかなかはっきり言えないことだと思います。それだけに、全力で支援をするということなんでしょうけれども、やっぱりしかし、ある一定の枠は、これは当然考えておられるでしょうけれども、この辺のところをしっかりと持っていきたいと思えます。

そして、糸魚川総合病院は、富山大学附属病院の、脾臓がん、あるいは胆道がんの専門のサテライト病院として特色を出すと。私、非常にいい考えだなと思ってるんですけども、ただ、これにより、他の診療科に影響があるようでは、また困るということで、これについて、どのように行政は捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院の脾臓・胆道センター、これは富山大学附属病院のサテライト的なものでございまして、これは糸魚川総合病院の特徴・特色だと思っています。それによって、若い医師だとか、そういった方が、糸魚川総合病院で働きたいというふうにも思っただけのような病院を目指しておるわけですので、ほかの診療科に影響を与えているというものではございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

先ほど申し上げましたけれども、救急医療、それから総合診療、これについても本当にしっかりとやっていただきたいと思います。

時間がなくなりましたので、産業関係について少しお聞きします。

糸魚川市観光協会は、地域で稼ぐ力を引き出すため、DMOを取得しましたけれども、期待どおり成果が出ているのかどうか、現状をお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

DMOが設立いたしましたして、七、八年経過しております。観光事業者などが連携できる仕組みづくりが、まだまだ弱かったかなというふうに感じておりますし、また、インバウンドなどの来訪者のニーズに応じた地域と一体となった受入れ体制につきましても、まだまだ弱い部分もありました。

しかし、ここ数年、地域活性化企業人を導入した中で、うまく運営が回っていったんじゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

地域経営ということで、非常に私は取得したのはよかったと思うんですけど、ただ、参考までになんですけども、白馬とか軽井沢は有名観光地で、これは単独でも可能だと思いますけども、例えば海の京都DMOというように、京丹後市、舞鶴など6市町村の観光協会が一旦解散し、新たな観光協会を設立してDMOを取得したと。そしてまた、これは信州飯山観光局、これも9市町村でDMOを取得して、それぞれ観光の協力をしているという、いわゆる連携を図って、観光メニュー、観光食材などの旅行商品をお互いにやっている。これ、非常に参考になると思うんですけども、これ北アルプス広域観光連携も、いい組織をつくってるだけにこの辺の考え方について、私はもっと積極的になってもいいんじゃないかなと思いますけども、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

DMOは、観光協会と比べまして行政区による制約を受けずに、行政の補助金も必ずしも依存しないところがメリットといいますか、相違点なのかなと思ってます。ということは、DMOは、広域連携や地域連携でのDMO団体、また、地域と地域が連携して行う広大的な観光コンテン

ツの整備やプロモーションなども行うことができるものだというふうに認識しております。

しかし、糸魚川のDMOが目指す姿を実現するために、地域DMOでなければならないものなのか、また、地域連携ができるのかというのをまた今後、調査・研究をしていかなければいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

相手があることですので、簡単にこちらがその気になっても難しいと思います。

ただ、スケールメリットで、このパンフレット見ても、1か所1か所のパンフレットで、例えば県が出してるものについては、福井県、富山県、新潟県と一緒に一つのパンフレットで見れる。私は、こういうパンフレットを北アルプス広域観光連携でも、一つのパンフレットでやることによって、外国人観光客の、次はあっちだ、次はこっちだと思えるようなパンフレットを作成する考え方はありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今現在も、北アルプス日本海広域観光連携会議では、台湾向けのパンフレットのほうを作成させていただいております。そのパンフレットが見やすいか見づらいかというのは、今後の検討事項だと思いますが、引き続き、そのようなパンフレットの種類を増やしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

これね、非常に立派なパンフレットなんです。でね、これ1枚だけで見るからちょっと、ここ行かなきゃならないというのはもちろん分かるんですけども、これは、県のレベルのパンフレット、これ一目瞭然で、各県が見やすくなっている。もちろん省かれてるところはたくさんありますけども、こういうパンフレットを作ることによって、広域的に連携できたり、あるいは、セールスにおいても、広域的にやってるかどうか、その辺、現状はどうなのか、広域でもって外国へアピールしているのかどうか、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

北アルプス日本海広域観光連携会議におきましては、毎年、台湾のほうにセールスコールもしておりますし、また、台湾の旅行会社に対してもアポイントを取って、PRのほうも務めさせていただいております。当エリアにやはり韓国の方が多く来ておりますので、ターゲットとしまして、台湾をメインに、今ほど取り組んでおるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

広域で宣伝してるかという、合同でいろんなところをやってるかということ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

先ほど答弁の中で、私のほう「韓国」というふうにお答えしたと思いますが、「台湾」の間違いでございますので、失礼いたしました。

今ほど合同で海外のほうでPRされてるかというお問合せなんですけど、北アルプス日本海広域観光連携会議におきまして、会議としまして、台湾のほうに出向いておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

今のような観光宣伝を大いにやっていただきたいというふうに思います。予算も関係ありますけども、大いにやっていただきたいなと思います。

そして、観光関係の職員が、入れ替わり立ち代わりするようでは、なかなか先ほどのDMOの関係することがなかなかうまくいかないというふうに思うんですけども、今後、糸魚川市として、これについてはスペシャリストを育てなければならないというふうに思うんですけども、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今まで市役所では、公務員では、オールラウンダーでありますゼネラリストを養成してきた時代が長かったというふうに思っております。今ほどご提言あります、スペシャリストの養成につきましては、今後、民間企業等と対等に渡り合えるためには、必要なことであるというふうに認識しております。今現在、職員数も減少しておりますことから、職員採用や、また組織改革等も併せて検討してまいる事項ではないかなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○１２番（松尾徹郎君）

もっとほかに聞いたかったですけども、最後に、産業振興策について、１点だけお聞きします。
新たな産業を興すとしたら、行政としては何が可能性があると考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

やはり当市の特色がありますヒスイや真柏、また、少量ですが、品質の高いお米など、ここにしかない特徴を生かした産業が、理想ではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○１２番（松尾徹郎君）

地味ですけども、やっぱり６次産業化とか、そういったものを、地域の食材を活用しての産業を興して、継続的に支援してほしいなというふうに思います。

ちょっとボリュームがあって、なかなかちょっとご質問することができなかったんですけども、今後、行政改革をきちっとして、そういったところから資金を捻出して、様々な事業に振り分けていってほしいということをお願いして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を１１時半といたします。

〈午前１１時２０分 休憩〉

〈午前１１時３０分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。〔１８番 田原 実君登壇〕

○１８番（田原 実君）